

活動分野	森に親しむ野外講座		
タイトル	千年の森と周辺の森の紅葉を楽しむ		
実施日時	平成28年12月3日(土) 8時 ~ 17時		
実施場所	君津市 豊英島(千年の森)と三島神社		
受講者	36名	F I C会員他スタッフ	8名(千年の森2名)

### 活動の内容

豊英島は小系川の源流部、豊英湖の中央に位置し面積約6haでダムが出来たために島となり現在ではつり橋で渡らないと入れない特別な場所です。

現在は「ちば千年の森をつくる会」が管理していて通常は橋の入り口に施錠されていて会の活動日以外は入ることが出来ません。このための島の植生は人為的影響が少なく、多様な樹木が混成していて草本植物、キノコ類も豊かで多数の希少種が記録されています。又動物相も豊かでニホンシカ、ニホンザル、テン等が生息しています。

今回はF I Cの野外講座のために特別に開放して頂き、12月としては風もなく暖かな散策日和に案内して頂きました。

植生は、氷河期遺存種のみもみ、ツガが残る一方木炭生産に由来するコナラ、シイ、カシの2次林が見られます。しかし整備を行う前は、マダケが島の大半に繁茂している状態で、それを整備して現在があると聞いて、ご苦労が理解できました。

島と言っても泳いで渡ってくる動物による、林床植物の食害が著しく減少も目立つことから「ニホンシカ等の動物と共存できる」森作りの試験場所の説明を受けました。

さらに、絶滅危惧種(ランクA)のヒメコマツの保全事業の一環として植栽され観察されている現場を見ました。昼食を千年の森ですませて、午後から三島神社に移動しました。



三島神社は豊英湖から10分程度と近いところで、社伝によると伊豆の三島から源頼朝がこの地に移したとの伝えがあります。三島神社には地域でナンジャモンジャと呼ばれている、県内でも数本しかないというアサダが、その他にニセジュズネノキ、ミヤマトベラ等貴重な植物もあります。大きなスギに囲まれた社殿は新設され、そのころに大きなスギが伐採されて、その切り株の年輪を皆で数え、残っている木の樹高測定をしました。

年輪測定(400年)



樹高測定48m

